

小・中学校等における業務改善の実践事例（平成30年度）

平成30年12月調べ

多くの学校で取り組まれた内容

- ・ 会議等の効率化（議題の精選、時間の厳守、資料の事前配付・ペーパーレス化）
- ・ 下校時刻を早め、教員の教材研究等の時間を確保
- ・ 出退勤時刻記録システムを活用した勤務時間の意識付け
- ・ ノー残業デー等の設定による退勤しやすい雰囲気づくり

【小学校（中学校共通含む。）】

■学校運営等

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	交換授業と他学年入り込み時間	同学年において、教科を交換授業したり、道徳の同じ教材を他クラスで指導したりし、教材研究の量を減らしている。 また、低学年から高学年に月1回程度入り込み授業の時間を確保し、高学年の負担軽減を図っている。
	支援体制の充実	課題のある児童の情報共有の徹底を図ることにより、教員相互の支援体制の充実を図っている。
山城	合理的かつ計画的な学校運営	昼休みや掃除時間の工夫・削減により、児童の一斉下校時刻を通常より30分早める曜日を週2日設定し、教員が教材研究や授業準備等に集中できる時間や子どもと向き合う時間を増加させた。
	合理的かつ計画的な学校運営	2学期の個人懇談を12月の最終週に実施し「あゆみ」の所見を省略。
	校時表の見直し及び運用	教育活動がスムーズに展開できる視点を重視するとともに教職員の学級事務等の時間を確保するため、校時表を見直し、放課後の時間が長くなるよう工夫した。
	取組の精選化・重点化	職員会議で全教職員で各部の取組の総点検を行い、その後研究推進委員会で整理、取組の精選化・重点化を大胆に進め、学校運営の効率化を図った。
	高学年における教科担任制の一部実施	第5学年の理科と社会、第6学年の音楽、家庭を2名の担任で交換し、授業を行うことで、教材研究にあてる時間の軽減を図る。
南丹	事務の効率化を目指すICT活用	諸届出の様式を活用・サーバー内整理（原案を分担して作成） →校務情報の共有化とサーバー内情報の整理推進
丹後	自校独自の教員間における確認事項	(1) 緊急の場合を除き、夕方6時以降他校への連絡をしない。 (2) 最終退勤を7時とする。（7時半からは夜間勤務と心得る。）

■各種会議の運営

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	会議の効率化	会議内容及び時間設定については、事前に知らせるとともに、配布資料の事前配布により、効率よく会議運営できるように工夫したところ、別の会議が設定できたり、教材研究の時間がとれるようになった。

地域	項目	学校の取組内容
山城	各種会議の合理的な運営	職員会議資料の事前配付。提案の時間配分をレジューメに記載し、厳守する。提案方法のコンパクト化を徹底する。
	各種会議の合理的な運営	会議・研修内容を精選・調整。また、勤務時間内で終わるよう、議題についても精選する。
	会議の合理的な運営	各会議では終了時間を予め決めて会議を行う。また、17時を過ぎる会議の設定はせず、合理的な進行を実行している。
	会議の精選や運営の工夫	分掌会議や学年会議等、各種会議の開催数の削減や開始・終了時刻の厳守、資料のペーパーレス化等による工夫や精選を行うことにより、従来の会議に係っていた時間の短縮を図った。
	職員会議準備の業務軽減	職員会議の資料を、紙ベースではなくパソコン上で行い、教務主任の印刷・綴じの時間を軽減することで、他の業務にかける時間を確保している。
南丹	終了時刻を決めた無駄のない会議の設定	資料の事前配布・終了時刻を明示して会議を開始 →PCを利用した会議のペーパーレス化や業務の省力化・効率化の推進
中丹	各種会議の合理的な運営	前年度までの企画会議→職員会議の流れを変更し、担当者が事前に検討を要する場合のみ企画会議を開催することとした。その結果企画会議は今年度1回開催のみとなった。また会議の資料のペーパーレス化により準備時間の短縮を図っている。
	各種会議の合理的な運営	必要な会議はどれかを厳選し、その会議の内容・ポイントを絞って、短時間集中の会議運営を行うことで、教員の教材研究や授業準備等に当てる時間を増加させた。
丹後	会議における議題の精選	事前に運営委員会で議題を整理し、連絡事項は文書による連絡で済ませ、協議すべき内容のみを議題とするようにした。

■学校行事等

地域	項目	学校の取組内容
山城	学校行事の計画的な実行	運動会・学習発表会・マラソン大会に取り組むための練習時間を学校全体で設定することで、授業時間の確保に努めた。また、表現活動・学習発表会の発表時間を指定したことで、負担感の軽減につながり、担当が児童と関わる時間が増えた。
	学校行事の計画的な実行	運動会の取り組み開始時期を早め、毎週練習休養日を設定することにより、疲労感・多忙感を緩和するよう努めた。
	行事の精選・縮小化	運動会の規模縮小や、マラソン大会の廃止等、行事を精選・規模縮小化を行い、行事に係っていた時間の短縮を図った。
南丹	学校行事の計画的な実行	小規模校の運動会の運営は大変であり、今年度から近隣の3校で小中合同運動会を開催し、職員の分担内容を軽減した。
中丹	校内行事の反省	PDCAサイクルを活かすため、行事終了後すぐに反省をする。反省用紙でなく、学校フォルダ内の指定された箇所に全員が打ち込み、その後担当部が来年度に申し送る事項を整理して提起する。

■勤務時間縮減等

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	ノー残業デーの設定	職員からノー残業日の設定曜日について調査し、曜日を決め、電話対応をしない旨の協力を保護者に伝えるとともに、17:30には全員退勤するよう決め、退勤を徹底したところ、仕事後の時間の使い方を楽しむ職員が増加した。
	ノー残業デーの実施	週に1度、教員の心身のリフレッシュを図るため、ノー残業デーを設定し、午後6時以降は教委で学校の電話を受けることとした。

地域	項目	学校の取組内容
山城	退勤しやすい職場雰囲気づくり	勤務時間終了の17時を意識し、遅くまで残って仕事を行うことがないように教職員同士で声をかけ合い、退勤しやすい雰囲気を全員で作っている。
	時間外勤務の状況把握と指導	「出退勤管理システム」を活用し、各月の残業状況をデスクトップに表示することで、教員の自我管理意識を高めるとともに、時間外勤務の多い教員への指導を行った。
	目標退勤時刻の設定	目標退勤時刻の設定と、長時間勤務の教職員に対する指導・助言を行っている。その際、原因分析と改善策について、管理職が当該教職員とともに考える場を設定している。
	カリキュラムマネジメントによる教員の業務時間の確保	全校で毎日10分間のモジュール授業を行い、実施方法をマニュアル化することで、中高学年の年間35時間増に無理なく対応でき、低学年の週1時間減も実現できた。それにより、教員の業務時間が確保できた。
	教員の業務時間の確保	月曜日の掃除時間を削減することにより、児童の下校時間を通常より40分早め、教職員が教材研究や事務処理に当てる時間を増やした。
	教員の業務時間の確保	京都府青少年育成協会が提唱する「家庭の日」とリンクさせ、原則毎月第4土曜日とその前後を「〇〇小家庭の日」とし、ノー宿題デーとする。これにより、週明けの担任による宿題点検やマル付けの事務負担を減らし、児童と向き合う時間を作る。
南丹	教員の業務時間確保	知識や理解の問題で、答えがはっきりしているものは自分で答えを確かめられるようにプリントを工夫するなどして、児童の問題に取り組む量を増やしつつ、教員のチェックの業務の軽減を図っている。（自学自習の習慣）
	時間外勤務の縮減と意識啓発	本年度よりタイムカードを導入した。現在は出勤時、退勤時の利用も定着し、時間を意識するようになってきた。また、タイムカードの記録から時間外勤務時間の平均を求めるなどの職員研修会を行い努力目標などを定めた。
	早く帰る日を設定	毎週水曜日に早く帰る（18時目標） →水曜日以外でも早く帰る日を増やす
中丹	退勤しやすい職場の雰囲気づくり	教育課程の工夫により平日の下校時刻を昨年度より30分早くし授業後の時間確保を多くしている。午後6時までの早退デーの毎週1回実施に加え、午後8時までは退勤を心がけるよう呼びかけている。特に退勤が遅くなる職員には個別に面談を実施している。
	教員の時間外勤務の削減と業務時間の確保	児童の登校時間を遅らせて教員がゆとりを持って出勤できるようにするとともに、児童の下校時間を早めて教員が教材研究を行ったり研究会議をもったりする時間を確保した。
	教員の業務削減	対外的な体育的行事への参加取り止めにより、それに係る放課後の指導業務や土日の大会引率業務を削減している。
	教員の週休日等における休養の確保	週休日等における協会等主催の大会への引率を縮小した。教員が週休日等に確実に休養できる日を増やした。
丹後	退勤しやすい職場雰囲気づくり	管理職が、一定の時刻になると積極的に声をかけ、残っている人と一緒に退勤している。また、一人一人が週のうち、ノー残業日を設定し、健康管理及び自分自身の時間をつくる。
	教員の業務時間の確保	毎日の児童の下校時刻を16時20分から繰り上げ16時とした。全校一斉下校とすることで、低学年児童が一人で歩く状況もなくなり、安全の確保が高まるとともに、放課後の時間が多くなることで、教職員にとって有効な時間が増えた。
	教員の業務時間の確保	分掌の業務量に見合う適正な人員配置 専科教員、加配等を活用し、担任の週あたりの持ち時間数を軽減し空き時間に学級事務等に当たれるようにした。

■ P T A ・ 地 域 と の 連 携 等

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	地域人材の活用	『ちょボラ』（ちょっとボランティア）を募り、休憩時の見守りや下校付き添いを依頼
山城	P T A 行事の平日開催	土曜日に実施していた学年親子行事を授業参観日に行うことにより、参加人数の増加も狙った。
	地域・保護者との連携	地域サポーター、学習サポーター、図書サポーター等、子どもたちの登下校の安全確保や、学習活動等に多くのサポーターの方々の支援により、教員の役割の一部が軽減され、授業準備等にかかる時間を増加させた。放課後の補習への支援（プリント学習の丸付け）を受けることにより、生徒への指導時間が確保できるとともに余裕のある指導体制を組むことができる。
南丹	登校指導の軽減	P T A 総会で働き方改革の趣旨を説明した上で、P T A と合同で月 1 回実施していた登校指導を P T A のみで実施するようにした。
中丹	P T A 行事の見直し	昨年度まで P T A 行事として行っていたオーブンドッジボール大会参加を、保護者有志を主体にしたことにより、学校職員が関わる部分を大幅に減らすことができ、時間外勤務短縮につながった。
丹後	外部人材活用による教員の指導負担の軽減	校外学習、P T A 行事、クラブ活動、学校の行事（マラソン大会、スキー教室）等、円滑な教育活動を推進するため保護者・地域ボランティアの協力を依頼し、教員の負担を軽減させた。
	地域行事への参加の縮小	夏季休業中の地域でのラジオ体操に、教職員としての参加はしないこととした。

【中学校】

■学校運営等

地域	項目	学校の取組内容
山城	効率的な業務改善	ICTの活用による情報の共有化の推進。 会議のペーパーレス化、時間短縮。
南丹	紙資料の整理方法の工夫	受付書類等をPDFにして、検索しやすくする。
中丹	合理的かつ計画的な学校運営	校内組織に働き方改革検討会議を設置し、長時間勤務の実態把握、業務改善の方策等を検討し、学年単位や教職員全員で定期的に話し合いを行い、全体の改善・意識改革に取り組んでいる。

■各種会議の運営

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	職員会議の回数の縮減	定期的に開催していた職員会議の回数を見直し、大幅な縮減に努めた。

■勤務時間縮減等

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	勤務時間の意識化	一ヶ月間の出退勤時間を各自に知らせるとともに、長時間勤務者には、体調管理について指導することで、勤務時間を意識するようになった。
山城	教職員の意識改革	「ノー部活動デー」「ノー残業デー」の設定に併せて毎週金曜日を「机上整理デー」とし、環境整備を促すことで仕事の効率化や無駄な時間の削減に繋げている。
	教職員の意識改革への働きかけ	仕事の絶対量が減らない中、これまでの勤務で染みついた勤務リズムの習慣から、出来るだけ早く退勤する意識を高めるとともに、仕事の効率化と業務委改善への意識を高めるよう働きかけを行っている。
	教員の業務時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの午後に、会議等を設定しない 各種分掌部会や会議の授業時間内の設定
	教員の業務時間の確保	毎週水曜日をノー部活デイとして設定することで、効率の良い練習方法へを考えることができている。また、空いた時間を自主学習に取り組み「水曜塾」として生徒の学力向上の取組につなげている。こうした取組をすることで、教員に余裕が生まれ、帰宅する時間が早くなった。
南丹	枠外の取組（陸上練習、駅伝練習）の見直し	南船に特徴的な取組であるが、陸上部のない学校が部活動後に陸上練習を行っている。今年度は、全員参加の総合的な学習に位置付け、教育課程内に取り組めるシステムを導入し、枠外の活動を減らした。また、駅伝指導教員を2グループに分けて担当曜日を決め、担当外については、他の仕事を優先し易いように配慮した。
丹後	ライトダウンdayの設定	月初めの水曜日をライトダウンdayとし、部活動停止とともに18:00退勤としている。特に教職員の家庭での生活や健康面の増進に努めている。

■部活動運営

地域	項目	学校の取組内容
乙訓	部活動運営の工夫	各部活動の計画的な休養日とは別に、月に一回、部活動を休止し、教育課題について協議を行う日（教育課題活動の日）を年間計画に設定し、協議終了後、定時退勤を励行している。
山城	部活動運営の工夫	ノー残業デーの設定、部活動終了時刻の徹底に加えて「ノー部活デー」を設定した。また、長期休業中の部活動終了時間を早め、教員（顧問）の退勤時間を保護者へ通知した。それらの取組により、計画的な部活動指導がさらに進み、特に長期休業中の退勤時間が早くなり、年休取得も増加した。
	部活動運営の工夫	週1回平日の部活休止日（水曜日）を設定するとともに部活動指針を策定し、生徒の健康管理と教職員の時間外勤務の縮減に向けて、部活動の計画的な運営に努めた。
	部活動運営の工夫	教委で策定中の部活動指針を見据え、練習試合等の計画的・合理的な実施や活動内容の見直しや工夫をおこなった。
丹後	部活動運営の工夫	部活動休養日を設定した。平日1日、週休日1日の最低2日間と夏季休業中においても休養日の設定

■年休取得

地域	項目	学校の取組内容
中丹	年休取得の推進	長期休業中に学校として部活停止日を設定し、年休を取りやすい環境を整備した。（基本的にこの期間は勤務をしない。）
丹後	年休の取得	夏季休業中の部活動場所（近隣の小学校）を確保し、全部活が午前中に終わられるようにし、午後の年休を取得する教職員が増えた。

■PTA・地域との連携等

地域	項目	学校の取組内容
丹後	PTA役員会	PTA本部役員会の開始時刻を変更（19：30→19：00）